・2022年11月16日(水)　第２分科会

高機能ASD者の就労継続を支える

～就労移行支援事業所におけるソフトスキル支援、地域機関と連携したライフスキル支援～

○ 徳谷　健（特定非営利活動法人クロスジョブ　クロスジョブ堺）
濱田　和秀(特定非営利活動法人クロスジョブ)
砂川　双葉(特定非営利活動法人クロスジョブ　クロスジョブ堺)

（１）本発表の目的

- 就労継続にあたり、作業遂行能力も大事だが、自身の不安を発信するソフトスキルや、生活環境を安定させるために周囲に頼るライフスキルも必要である。
- 本事例の対象者は、自己発信・相談が出来ずに離職を繰り返しており、家庭環境にも不安定な要素を抱えていた。
- 就労場面での発信を確立するソフトスキル支援、生活課題に対して地域連携の中で行ったライフスキル支援について報告する。

(2)対象者

- マサシさん(仮名)、４0代、男性。精神保健福祉手帳３級を所持。
- 自閉スペクトラム症（ASD）。高校入学前のオリエンテーションに対する予期不安が高まり、不登校となったことをきっかけに精神科を受診。
- 高校卒業後、自身の不安を相談できず、自ら退職を申し出ることが続く。再度受診した際に「軽度の発達障害」の診断を受け、手帳を取得。
- 病院からの勧めで就業・生活支援センターを利用。
- 就業・生活支援センターからの勧めを受けて就労移行支援事業所の利用に繋がる。

NIVR

(3)家庭環境の変化

１．兄の入院

・病状悪化のため、長期入院。退院の目途はたたない。

・マサシさんは「再度の同居は不可能」と不安を持っていたため、基幹相談支援センターとの連携を開始。

・見通しがハッキリしないことに対する不安は続いている。

２．父の他界

・葬儀の取り仕切りや、死亡届などの各種手続きを執り行う。

３．母の病

・心臓の病を得て、緊急入院。

・退院後、手術を行うか投薬治療のみとするかを決めるための経過観察受診に付き添う状況が続く。

CROSSJOB

(4)就労移行利用から雇用・離職・再利用

就労移行時

・企業実習を3度経験。

・兄の入院、父の他界を経て19カ月利用の後、就職。

トライアル雇用

・店舗バックヤード業務に従事

・キーパーソンの固定、店長の障害理解に安心感を持って勤務継続。

・キーパーソンの異動から不安が高まり離職。

就労移行再利用

・不安が高まった要因の振り返り

・自身の想いを発信する方法を模索

(5)不安が高まった要因

断定的な思考のクセ

・何と言えばいいか、ちゃんと考えてから相談したい。

・相手の返答が予想できない相談は不安。

・どうしたらいいかわからない

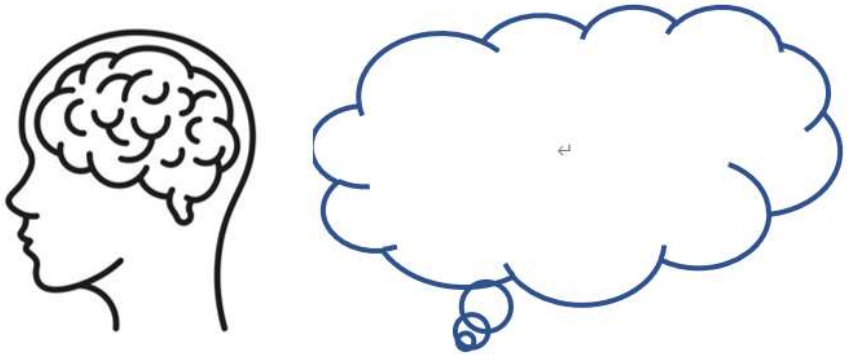
・自分は悪く思われているに違いない！

・ここに居ないほうがいい！

NIVR

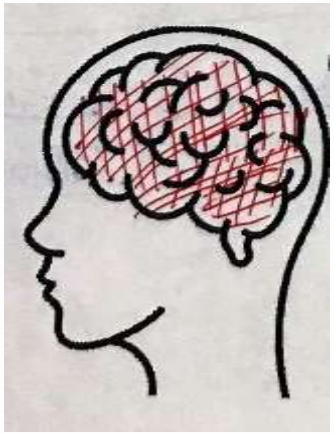
(6)思考のクセを知り・表出する支援

- 断定的な思考はストレスのサインである。
- 自身の考えをメモに書き出し文章化することが出来る。
- 書き出しシートを使用し、書き出す項目を明確化。
- 訓練終了時に毎回書いて提出する、タイミングの明確化。

日付:	
身体の調子	(悪い)1・2・3・4・5(良い)
気持ちの調子	(悪い)1・2・3・4・5(良い)
睡眠	○ ・ △ ・ ×
頭の中の状態	

CROSSJOB

(7)企業実習場面での書き出し・表出



- キーパーソンではない人から新たな作業を指示され、自分では合っていると思った手順で連続して不良品を出してしまった。
- キーパーソンから注意はされなかったが、いつもの作業に戻るように指示された。
- すごくよくしてもらっているのに、仕事が合っているのかどうかもわからなくなった。
- 失敗の原因が何だったのか、知りたい
- 自分では大きなミスだと思っていた。思い込みであればいいが、どうか？

指示側に齟齬があった結果のミス。気にしなくてよい

NIVR

(8)地域機関との連携

機関	連携
医療	定期的な受診･カウンセリング、就労に合わせた受診時間の変更。
就業･生活支援センター	就労移行支援事業所紹介、ケアカンファレンスへの同席、基幹相談支援センターの紹介。
基幹相談支援センター	母の介護認定申請、本人の区分申請手続き、父の葬儀･事務手続きの支援。
職業センター	職業評価･ジョブコーチ支援。

※各機関の役割と相談のタイミングを明示した。
※メモへの事前書き出しとメールの使用で自発的な相談が出来ている。

CROSSJOB

(9)考察

・マサシさんの書き出しは、企業・各連携機関との対面時に言葉として表出するための見通しとなり、心理的ハードルを下げることにも繋がった。

・社会資源との連携無くして就労と生活課題の支援を同時進行することは難しい。連携の中では、他者の意見を取り入れながら先の見通しを組み立てる当事者のスキルも必要となる。

・自身の困り感を自覚し、適切に表出して周囲を頼るためのソフトスキル支援が必須である。

（１０）参考文献

・１）梅永雄二(2017)発達障害の子の子育て相談⑥キャリア支援　進学・就職を見据えた子育て、職業生活のサポート,本の種出版